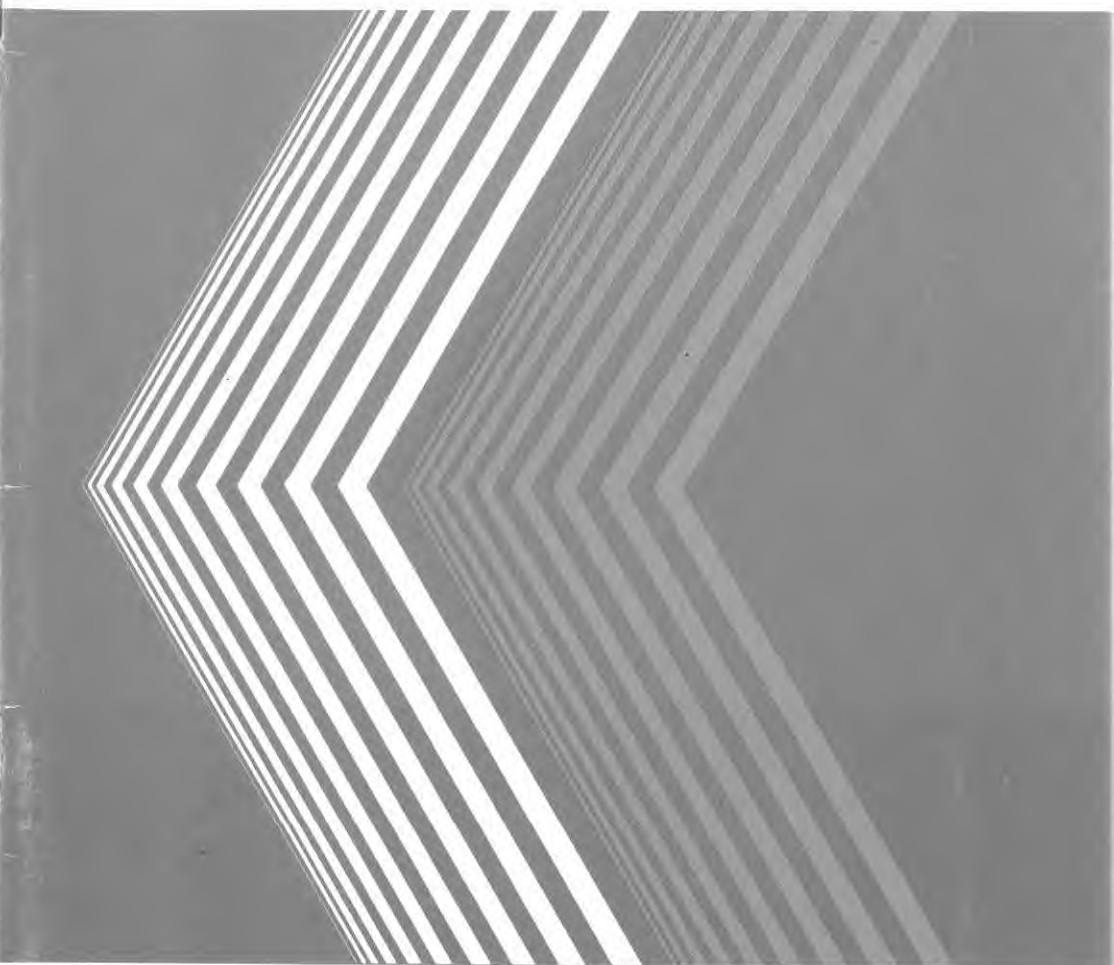


ホンダ発電機

hippo EX 300

取扱説明書



お買いあげありがとうございました。

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

ホンダ発電機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店またはサービス店**にお気軽にお申し付けください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

- ・運転をするときには、必ず携帯してください。
- ・発電機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒に**お渡し**ください。
- ・紛失や損傷したときは、お買いあげ販売店、サービス店またはホンダ汎用営業所にご注文ください。

は じ め に

この取扱説明書は、お買いあげいただいた発電機で安全かつ能率的な運転をする手助けとして編集されたものです。

取扱説明書には、発電機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

発電機を運転する前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、発電機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

保証書はよくお読みいただき裏面のサイン欄にご署名の上、大切に保管してください。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう	4
安全ラベル	8
各部の名称と取扱いをおぼえましょう	9
エンジン スイッチ／チョーク	11
始動グリップ	11
交流コンセント	12
直流リセット スイッチ	12
直流コンセント	13
出力表示灯	13
過負荷警告灯	14
交流出力切換スイッチ	14
アース端子	15
外部タンク燃料コック レバー(JHL,NHLタイプのみ)	15
タンク キャップつまみ	16
運転をする前に点検しましょう	17
混合燃料の点検	17
エア クリーナの点検	19
発電機周辺の点検	20
発電機のかけかた	21
電気の取出しかた	24
交流	24
直流(12Vバッテリー充電専用)	27
発電機のとめかた	30
定期点検を受けましょう	32

やさしい点検・整備	33
排気口金網の清掃	33
エア クリーナの清掃	34
点火プラグの清掃・調整	36
常時使用しない場合には	38
運搬する場合には	39
長期間使用しない時の手入れ	40
修理を依頼する前の簡単な点検	42
主要諸元	44
交流電源／直流電源の使用できる範囲	45
配線図	47

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上で操作してください。
- この発電機は車載用として製造はしていませんので車載したまま使用しないでください。
- 発電機を間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 適切な指示なしでは絶対に誰にも発電機の操作をさせないでください。特に子供には絶対操作させないでください。事故や、発電機、使用器具の損傷が起こる原因となります。
- エンジンを始動する前に必ず「運転する前に点検しましょう」(17～20頁)を行ってください。事故や発電機、使用器具の故障の防止になります。
- 過労や飲酒、薬物を服用して発電機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。排気は風通しのよい場所に向けてください。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や、動植物などにも十分ご注意ください。
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などや換気の悪い場所では使用しないでください。
換気の悪い場所は、酸素不足と有害な一酸化炭素がたまってガス中毒の危険があります。

警告

- 燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して大けがや死亡事故を引き起こす恐れがあります。燃料を補給するときは、エンジンを停止し換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給しているときは、タバコを吸ったり、炎や、たき火などの火気を近付けないでください。
- 燃料は、こぼさないように注意してください。燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取り、乾かしてからエンジンを始動してください。
- 使用場所が小石、土、砂利などで凸凹していたり、軟らかい所や傾斜地では使用しないでください。発電機が転倒し、本機や使用器具の故障を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 発電機の改造は絶対にしないでください。
本機や使用器具が故障するだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- カバー類を外したまま使用しないでください。手や足をはさんだり思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 雨の中や水のかかる場所では使用しないでください。
雨や水で濡れた発電機や使用器具を使用したり、また濡れた手で操作すると感電することがあり危険です。
- 電力会社からの電気配線には絶対接続しないでください。
本機や使用器具を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因となります。
- 発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

警告

●使用中の注意

- 使用中は建物およびその他の設備から1 m以上本機を離してください。

発電機からの排気ガスは熱くなります。まわりに危険物(油脂類、セルロイド、火薬など)や燃えやすいもの(わらくず、紙くずなど)は近付けないでください。また本機の周囲を囲ったり、箱をかぶせたりしないでください。本機や使用器具に損傷を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。

- 使用中や停止直後の発電機はエンジン本体やマフラなどが非常に熱くなりますので、エンジン本体やマフラなどに触れないでください。やけどなどの傷害を起こします。

- 使用中は発電機を傾斜させたり、移動しないでください。

燃料漏れや、振動による自然移動、転倒による本機や使用器具の損傷、故障の原因など思わぬ事故の可能性があります。

- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス店にお申し付けください。
- 発電機から離れるときは、必ずエンジンを止め、本機から使用器具のコンセントを外してください。

いたずらなどで使用器具が動きだし、思わぬ事故が起こす可能性があります。

警告

● 使い終わったら

- 発電機の水洗いはしないでください。

電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電する恐れがあります。

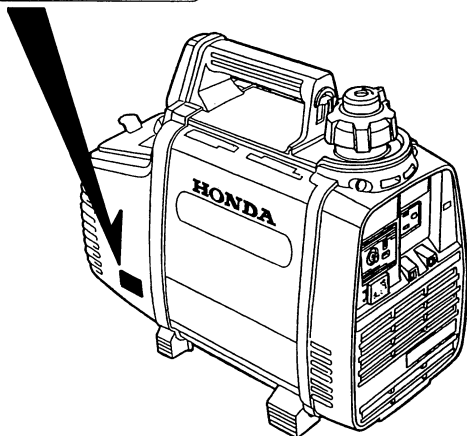
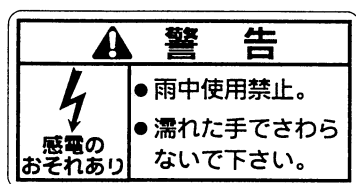
- 長期保管前には、燃料タンク、気化器(キャブレータ)内の燃料を抜き取り発電機を火気や、湿気、凍結の恐れのない所に保管してください。抜き取った燃料は火災や爆発の危険性がありますので適切な処理をしてください。
- 各部の点検、清掃は必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチを”停止”位置にし、点火プラグキャップを外して行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分冷えてから作業を行ってください。

安全ラベル

発電機を安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

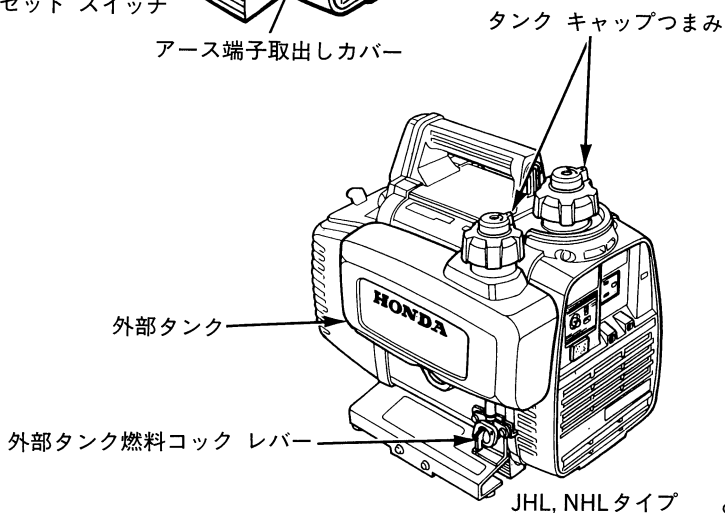
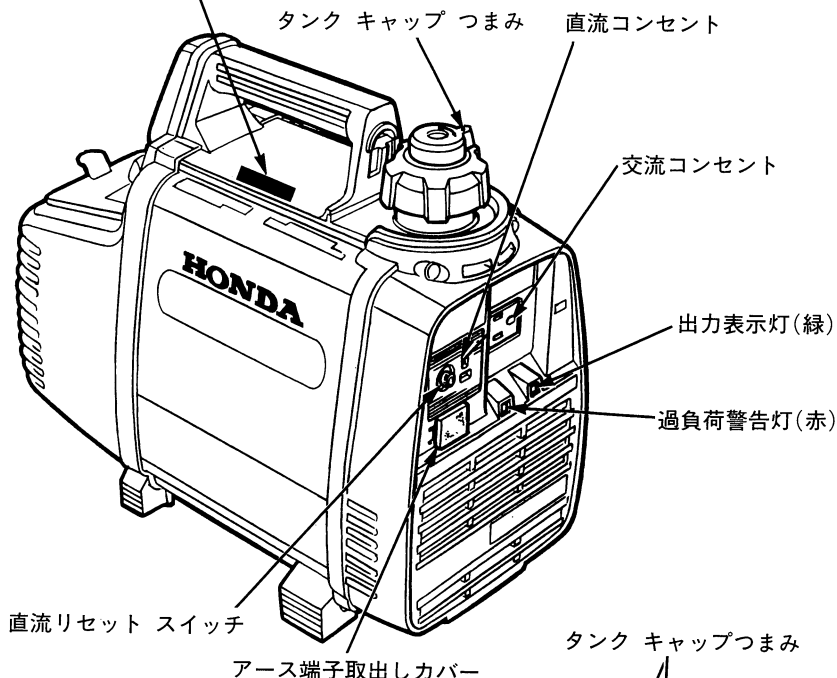
ラベルははっきりと見えるようにきれいにしておいてください。

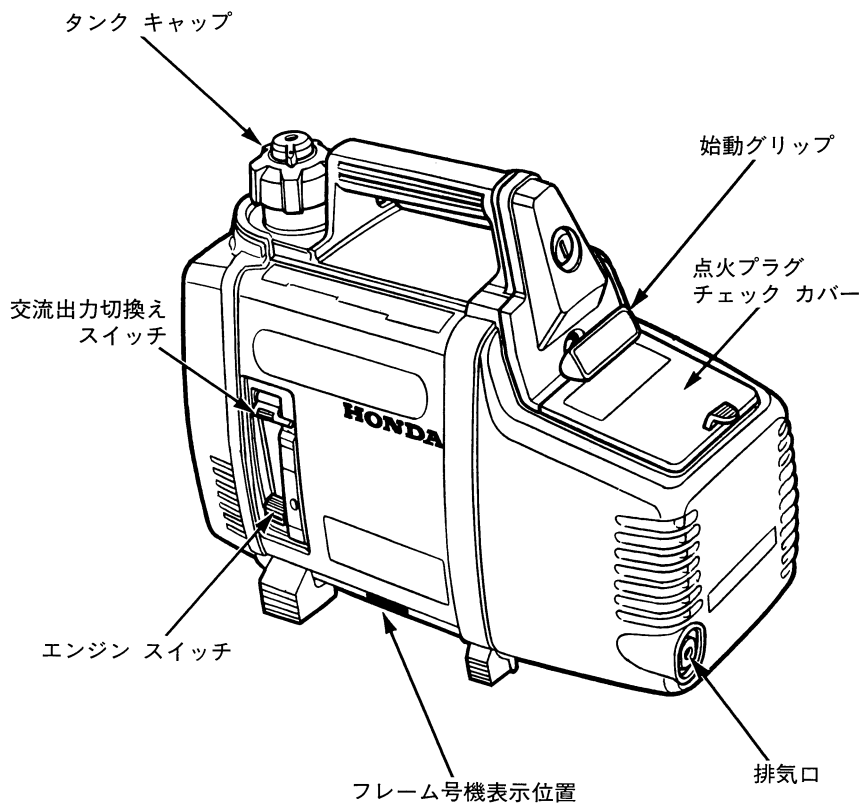
本機に貼ってあるラベルが破れ、紛失、汚れなどで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また、安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店またはサービス店にご注文ください。



各部の名称と取扱いをおぼえましょう

保証票をここに貼ってください。

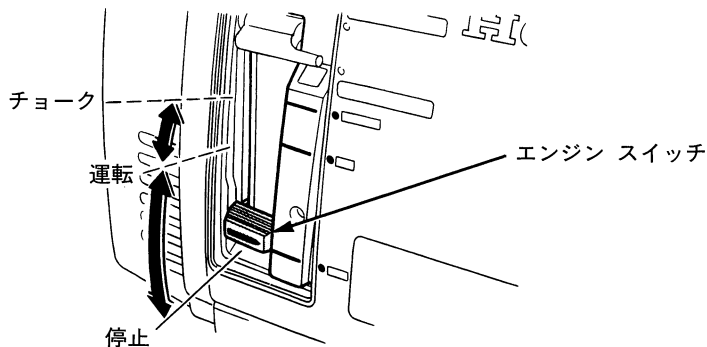




エンジン スイッチ／チョーク

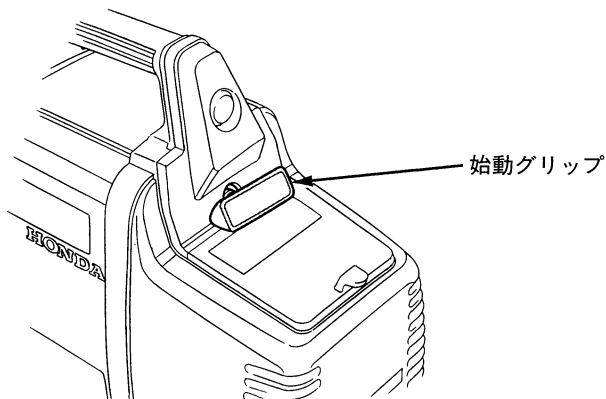
発電機を運転、停止させるときに操作します。

始動時にエンジンが冷えているとき、エンジン スイッチをチョークの位置にします。



始動グリップ

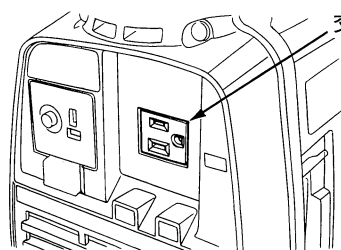
発電機を始動するときに操作します。



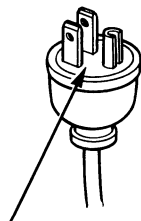
交流コンセント

交流電気を取り出すところです。

コンセントへプラグを差し込む場合は接触不良、抜けのないように確実に行ってください。



交流コンセント



アース付3本足差し込みプラグ(別売り)

差し込みプラグは、図のようなアース付き 3 本足差し込みプラグを使用してください。

直流リセット スイッチ

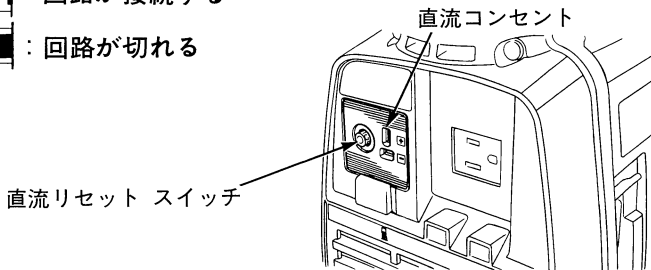
直流回路を保護します。

発電中に異常があった場合や過負荷のときにリセット スイッチが切れ、電気が取らせなくなります。

スイッチが切れた場合はすぐに“入”にしないで接続配線に異常がないか、また電気の取り出し過ぎでないか確認してからスイッチを“入”にします。

入  : 回路が接続する

断  : 回路が切れる



直流コンセント

直流リセット スイッチ

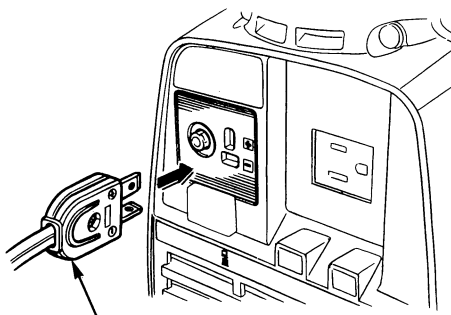
直流コンセント

直流コンセントは直流出力を取り出すところで、12Vバッテリー充電専用です。

交流出力を使用している場合でも直流出力を取り出せます。

T型コンセントのバッテリー充電コードをご使用ください。

※バッテリー充電コードはお買いあげ販売店またはサービス店でお求めください。

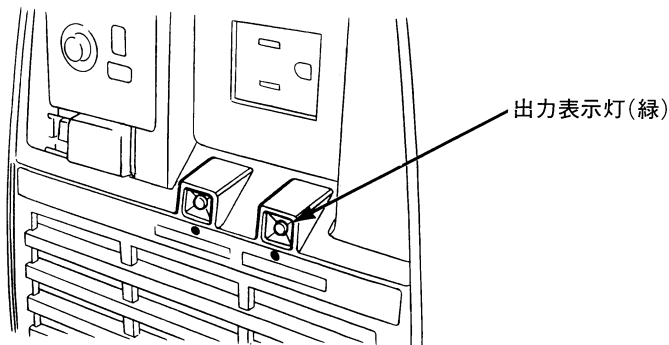


T型コンセント バッテリー充電コード(別売)

出力表示灯

交流の発電状態を確認できます。

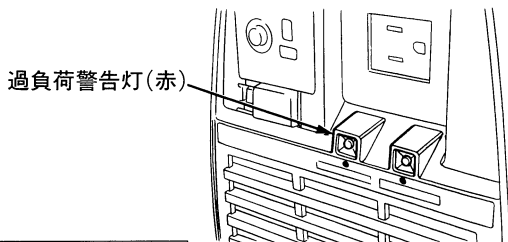
正常運転(定格負荷) でご使用の場合は、出力表示灯(緑のランプ) が点灯し続けます。



過負荷警告灯

発電中に使用器具に異常があった場合や、過負荷のときに出力表示灯(緑のランプ)が消え過負荷警告灯(赤のランプ)が点灯し、電気が取り出せなくなります。

使用する電気器具は必ず定格出力内で使用してください。諸元(44頁)、交流出力の使用できる範囲(45頁)を参照してください。

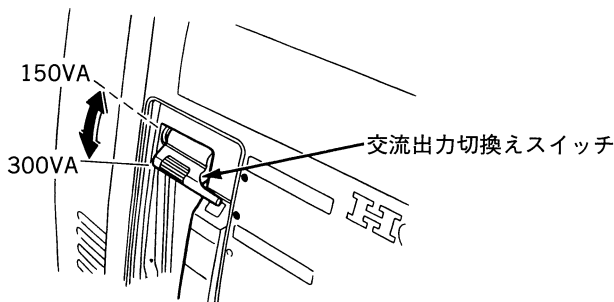


取扱いのポイント

- ・ 過負荷警告灯が点灯すると、保護装置が働き発電は停止します。このランプが点灯した場合は速やかにエンジンを停止してください。その後使用器具に異常がないか、また電気の取出し過ぎでないか確認してから再始動してください。

交流出力切換スイッチ

使用器具に合わせて交流出力を2段階に切り換えられます。

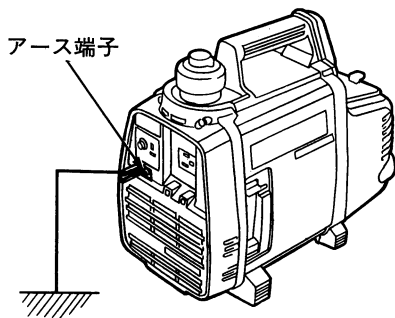
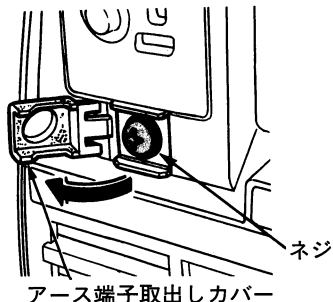


アース端子

発電機を地面にアースする端子です。

使用器具をアースしたときは、発電機もアースしてください。

※アース端子カバーを開きプラス ドライバでネジをゆるめアース コードを端子に締付けてください。



外部タンク燃料コック レバー(JHL,NHLタイプのみ)

外部タンクの燃料通路を開閉するときに操作します。

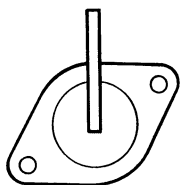
内部タンクと外部タンクは切り換えて使用します。片方のタンクが空になったら(エンジンが止まったら)、外部タンク燃料コック レバーを切り換えます。

操作は確実に“開(ON)”“閉(OFF)”の位置に合わせてください。

“開(ON)”：外部タンクの燃料が使用できます。

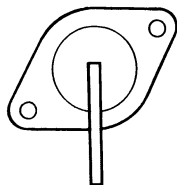
“閉(OFF)”：内部タンクの燃料が使用できます。(外部タンクの燃料は使用できません。)

ON(開)

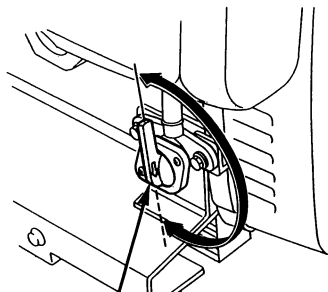


外部タンクの燃料
が使用できます。

OFF(閉)



内部タンクの燃料
が使用できます。



外部タンク燃料コック レバー

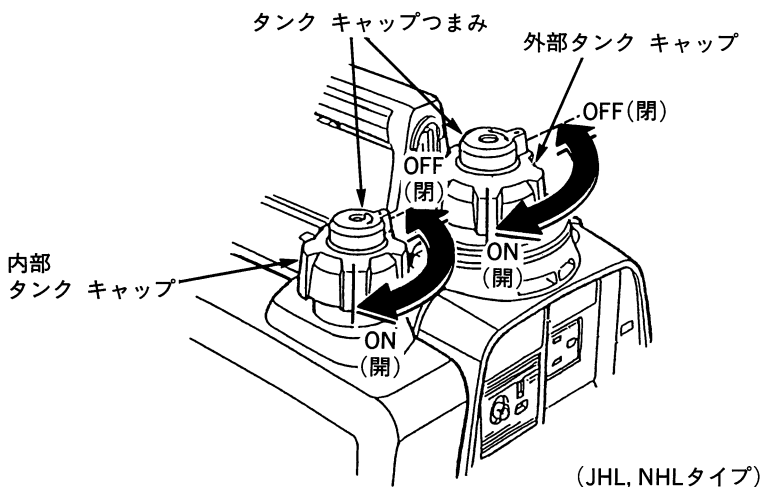
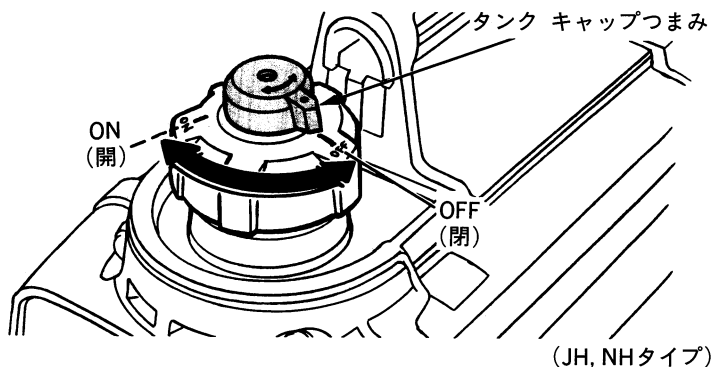
タンク キャップのつまみ

タンク キャップのつまみは、燃料タンク内と外気との通気穴の開閉装置です。発電機を運転するときに操作します。

操作は確実に“開(ON)”“閉(OFF)”の位置に合わせてください。

“開(ON)”：発電機運転時

“閉(OFF)”：停止、運搬、保管時



運転をする前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ キャップを外して行ってください。

混合燃料の点検

この発電機は2サイクル エンジンを使用しています。必ず混合燃料(ガソリンと2サイクル オイル) を使用してください。

混合比：100(ガソリン)：1(2サイクル オイル)

点検

燃料タンク キャップを外し、注入口のレベル(給油限界位置) まで混合燃料があるか点検します。

JHL,NHLタイプの場合は外部タンクも同様に点検します。

少ない場合は補給します。

補給

タンク容量：内部タンク：0.81ℓ

外部タンク：1.50ℓ (JHL,NHLタイプのみ)

使用燃料：自動車用ガソリン

推奨混合用オイル：ホンダ ウルトラ2スーパー エキストラ

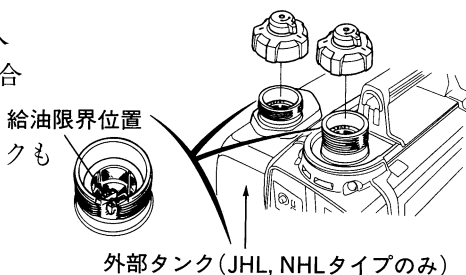
混合比：100(ガソリン)：1(2サイクル オイル)

●混合オイルはお買いあげ販売店またはサービス店でお買い求めください。

燃料給油キャップを外し、注入口のレベル(給油限界位置) を越えないように補給します。

レベルより上に補給すると、燃料が漏れることがあります。

補給後、キャップを確実に締め付けてください。

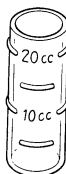


混合燃料のつくりかた

混合比は100：1の割合です。同梱の計量カップ(20cc用)を用いて下記の表を目安として、ガソリンと2サイクルオイルを別容器でよく混合して混合比100：1の混合燃料にしてください。

ガソリン(100)	2サイクルオイル(1)
500cc	計量カップ1/4杯(5cc)
750cc	計量カップ3/8杯(7.5cc)
1,000cc(1ℓ)	計量カップ1/2杯(10cc)
1,500cc(1.5ℓ)	計量カップ3/4杯(15cc)
2,000cc(2ℓ)	計量カップ1杯(20cc)

オイル計量用カップ



⚠警告

燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して大けがや死亡事故を引き起こす恐れがあります。

燃料を補給するときは

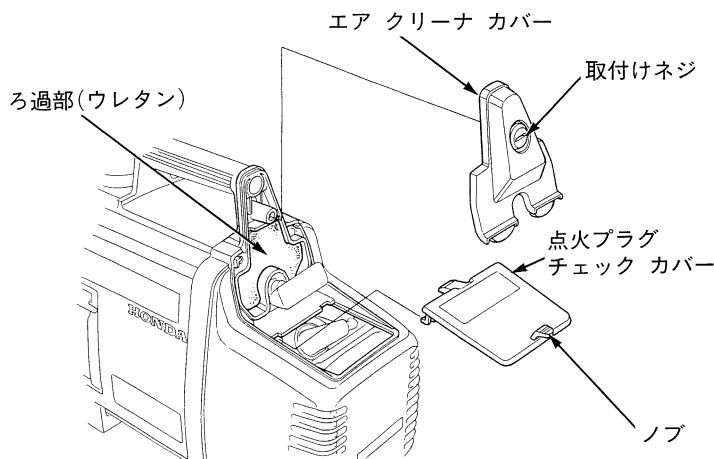
- ・火気を近づけないでください。
- ・エンジンを停止してください。
- ・換気の良い場所で行ってください。
- ・燃料はこぼさないように補給してください。万一こぼれた時は、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布などは、火災と環境に注意して処分してください。
- ・燃料は口元まで入れず所定のレベルまで補給してください。入れすぎるとタンク内の燃料が燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

エア クリーナの点検

点検

1. ノブを持ち上げ点火プラグチェック カバーを外します。
2. エア クリーナ カバーを外し、ろ過部(ウレタン) の汚れを点検します。

汚れのひどい場合は、ろ過部(ウレタン) の清掃をします。(清掃方法は34頁参照)



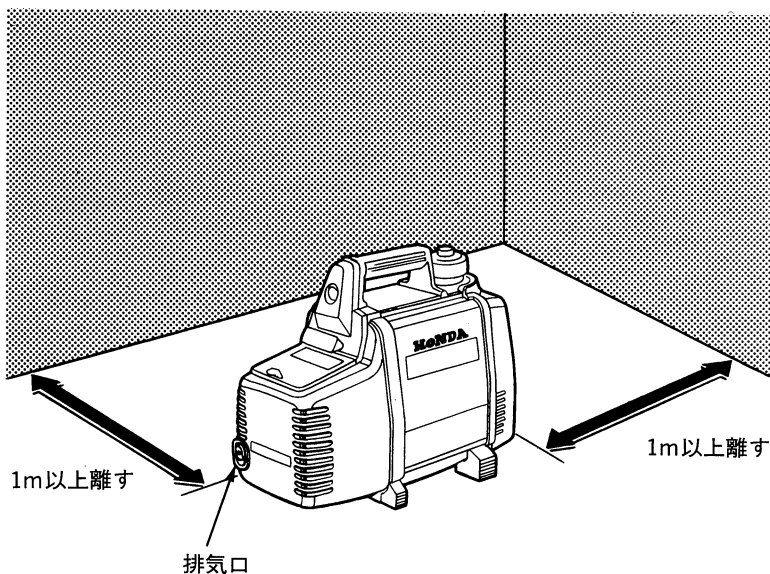
3. エア クリーナ カバーを確実に取付けます。

取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部(ウレタン)が変形して取付けられた場合、またはカバーやろ過部(ウレタン)が取付けられていない場合はエンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部(ウレタン)などは確実に取付けてください。

発電機周辺の点検

- ・ 燃えやすいものや危険物は置いていませんか。
 - ・ 建物および他の設置物から 1 m 以上離れていますか。
 - ・ 風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
 - ・ 排気口は風通しの良い、広場に向けてありますか。
 - ・ 周囲に火の気はないですか。
 - ・ 発電機をダンボール等で囲っていませんか。
 - ・ 使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり軟らかい所では使用しないでください。
- やむをえず使用する場合は、発電機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- ・ 傾斜地では使用しないでください。



発電機のかけかた

⚠注意

発電機のコンセントから使用器具のプラグが抜いてあることを確認してください。使用器具が接続されたまま発電機を始動すると始動困難や発電性能に異常をきたすことがあります。

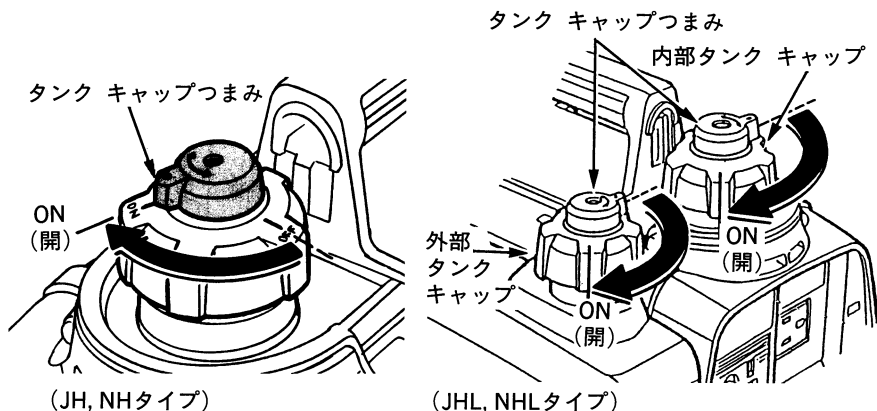
使用器具が不意に作動を始め思わぬけがや事故を起こす可能性があります。

1. 燃料タンク キャップのつまみを“開(ON)”の位置にします。

JHL、NHLタイプの場合は、外部タンクの燃料タンクキャップつまみも“開(ON)”の位置にします。

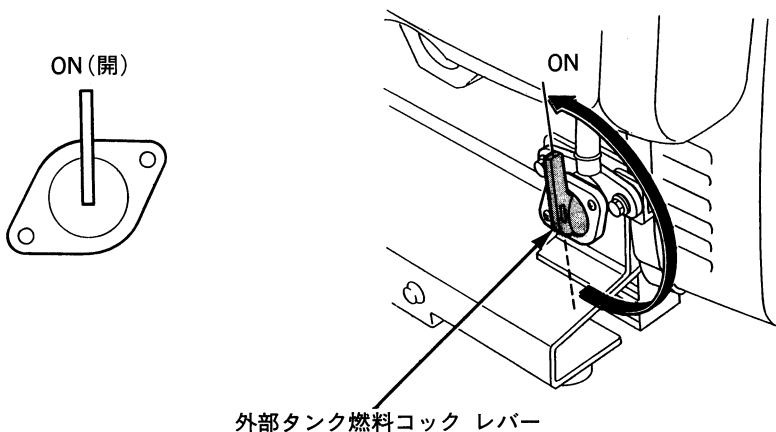
操作は確実に“開(ON)”の位置に合わせてください。

燃料タンクキャップつまみを“開(ON)”にしないと燃料が供給されずにエンジンが停止します。

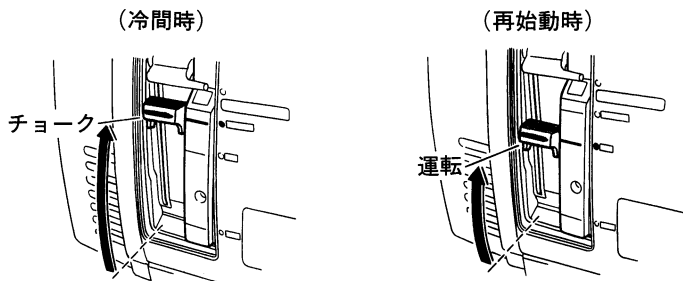


2. JHL、NHLタイプのみ

外部タンクを使用する場合は、外部タンク燃料コック レバーを“開 (ON)”にします。



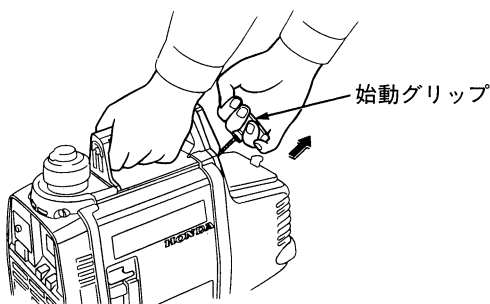
3. エンジン冷間時エンジン スイッチを“**チョーク**”の位置に合わせます。
再始動の場合は“**運転**”の位置に合わせます。



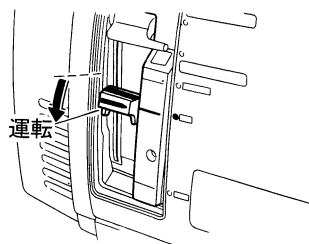
4. ハンドルを押さえて、始動グリップを引き重くなる所をさがし、始動グリップを一度戻してからグリップを勢いよく引くとエンジンがかかります。

取扱いのポイント

- ・ 始動グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
- ・ 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。



5. エンジン スイッチを“**チョーク**”の位置で始動した場合は、始動後エンジンの回転が安定したらエンジン スイッチを“**運転**”の位置にし暖機運転を行います。



電気の取出しかた

使用器具を接続する前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みください。

⚠警告

- 電力会社からの電気配線には絶対接続しないでください。
火災あるいは人身事故または本機や使用器具が故障する原因となります。

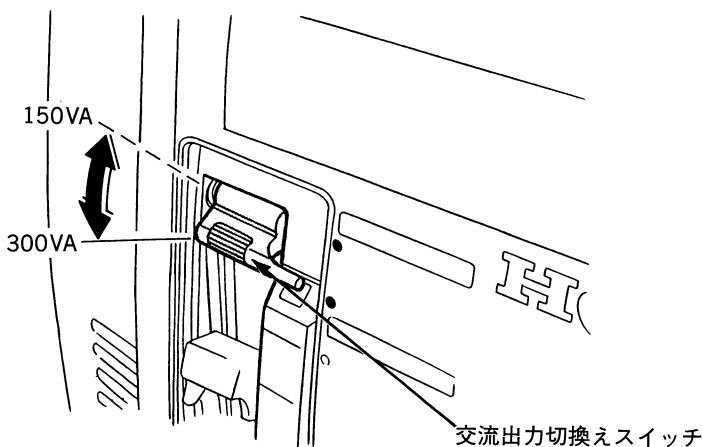
- 発電機の使用に際しては、法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

交流

- 交流出力切換スイッチを使用器具に合わせ切り換えます。
直流と交流を同時に取り出す場合は切換スイッチを300VAにします。

取扱いのポイント

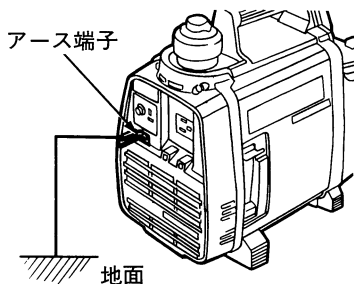
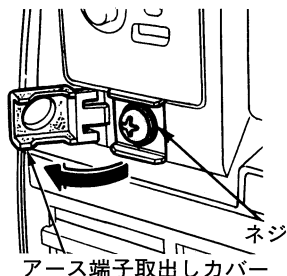
- 使用器具によっては過負荷となり過負荷警告灯が点灯し電気が取り出せなくなります。使用できる範囲は45頁を参照してください。
- 直流と交流を同時に取り出す場合は、交流出力は250VA以下でご使用ください。



2. アース端子カバーを開きアース端子を接続します。

使用器具をアースした場合は、発電機もアースしてください。

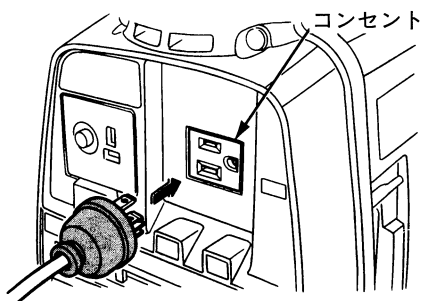
プラス ドライバでネジをゆるめ、端子を接続してからネジを確実に締付けてください。



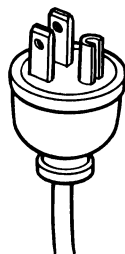
3. 「発電機のかけかた」に従ってエンジンを始動します。

4. 使用器具のスイッチが切れていることを確認し、コンセントへ使用器具のプラグを差し込みます。

差し込みプラグは図のようなアース付き 3 本足差し込みプラグを使用してください。



アース付き 3 本足差し込み
プラグ(別売り)



⚠ 注意

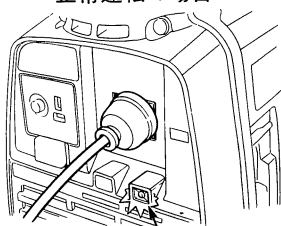
- ・ 接続されている使用器具のスイッチが切れていることを確認してください。

使用器具のスイッチが入っていると、使用器具が急に作動し、思わぬけがや事故を起こす可能性があります。

5. 使用器具のスイッチを入れます。

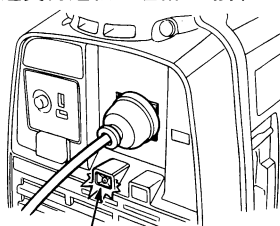
出力表示灯(緑のランプ) が点灯します。

正常運転の場合



出力表示灯(緑)

過負荷運転や短絡の場合



過負荷警告灯(赤)

- 過負荷運転(300VA以上) や使用器具が異常を起こした場合は、緑のランプが消え過負荷警告灯(赤のランプ) が点灯し続け、電気が取り出せなくなります。

このときエンジンは停止しませんのでエンジン スイッチを“停止”にし、エンジンを停止してください。

取扱いのポイント

- ・ 過負荷警告灯は次のような場合も点灯します。
 - 排気口の金網にカーボンが堆積したとき。エンジンの回転が下がったり、エンジンが停止する場合があります。金網を清掃してください。(清掃：33頁参照)
 - マフラにカーボンが堆積したとき。エンジンの回転が下がったり、エンジンが停止する場合があります。マフラの清掃が必要です。お買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。
- ・ モータなどの大きな起動電力を必要とする器具を使用すると、一時的(約10秒間) に赤いランプと緑のランプが同時に点灯しますが異常ではありません。器具が起動した後は、赤いランプが消え緑のランプが点灯し続けます。

6. 再度電気を取出す場合は、使用器具のプラグをコンセントから外し、器具や接続に異常が無いか電気の取出しすぎでないか確認を行い、その後エンジンを始動します。

直流(12Vバッテリー充電専用)

12Vバッテリーの充電以外には使用しないでください。

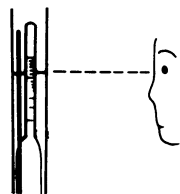
⚠警告

- ・バッテリーを取扱うときは風通しの良い所で、ショートによる火花に注意してください。
また火気を近づけないでください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- ・バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が浸されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けて下さい。
- ・充電する時は、バッテリーに接続されているコードはすべて取外してから行ってください。
外すときは⊖側から外し、接続は⊕側から行ってください。誤るとショートする場合があります。

取扱いのポイント

バッテリーを長時間充電すると、バッテリー液温度が上がりバッテリーの機能が低下する場合があります。

1. バッテリーのコードを外してください。
マイナス⊖コードを先に取外す。
2. バッテリーの比重を測定します。
 - バッテリーの栓を外して、バッテリー液量を点検します。液面が下限(LOWER)に近い場合は、各セルに蒸留水を上限(UPPER)まで補給します。
 - 比重計でバッテリー液の比重を測定します。
バッテリーの比重を基に充電時間を求めます。※比重計は、お買いあけ販売店またはサービス店にご相談ください。



比重計

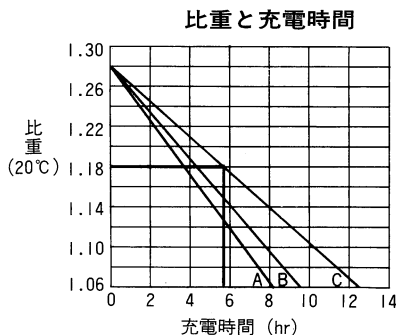
● 比重は1時間おき位に測定してください。またリセット スイッチが切れていないか確認してください。(目安として満充電の比重は1.26~1.28です。)

● 各セルの比重も測定してください。

3. バッテリー液の比重を基に充電時間を求めます。

● 例：図は比重1.18の47Ah/20HRバッテリーを約5時間30分充電すると満充電になることを示しています。

● バッテリーの種類、放電状態によって充電時間は異なる場合があります。



バッテリー：容量

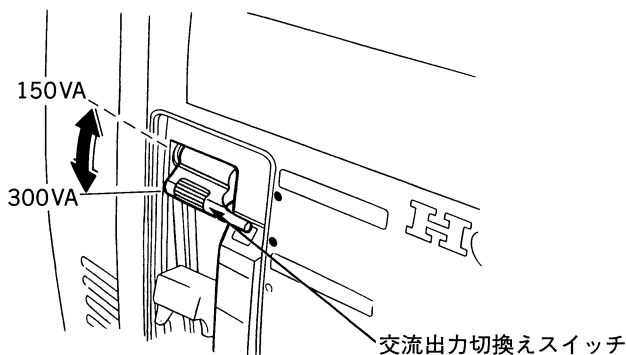
A：30Ah/20HR

B：35Ah/20HR

C：47Ah/20HR

※30Ah/20HRとは(30アンペアアワー20時間率放電時) 電流1.5Aで連続20時間放電できるバッテリー容量を示します。

4. 交流切換スイッチを300VAにセットします。



5. 充電コードをバッテリーにつなぎ、充電コードのプラグを直流コンセントに接続します。

コードの取付けは必ず図の番号順に行い、取外しはエンジンを停止した後、取付けの逆の手順で行います。

※充電コードはお買いあげ販売店またはサービス店でお買い求めいただけます。

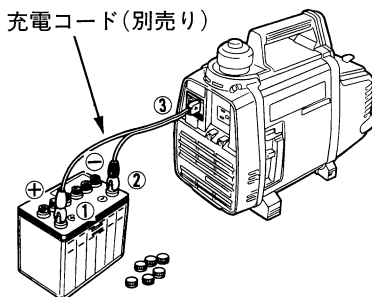
6. エンジンを始動し充電します。

⚠警告

充電コードは⊕⊖の極性を間違いなく接続してください。ショートする場合があります。バッテリーからは可燃のガスが発生しているので爆発の危険があります。また発電機やバッテリーの故障の原因となります。

取扱いのポイント

リセットスイッチが“切”になっているときは、結線を確認してから“入”にします。



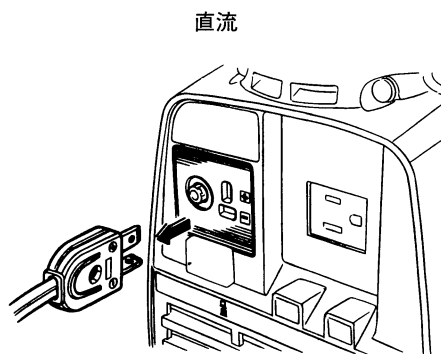
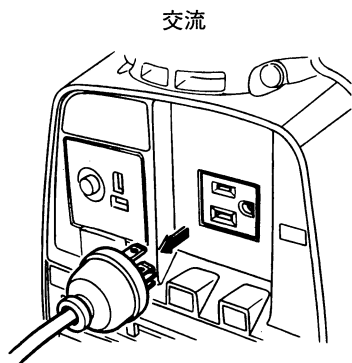
発電機のとめかた

緊急停止の場合

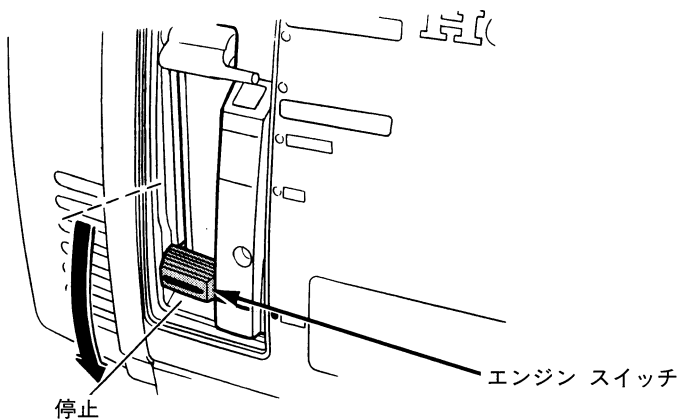
エンジン スイッチを“停止”の位置にします

通常の停止

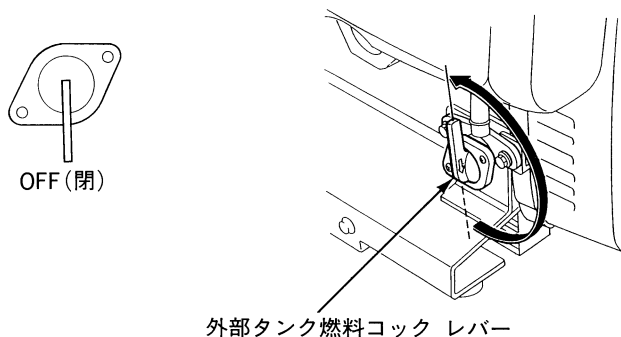
1. 接続機具のスイッチを切り、差込みプラグを抜きます。



2. エンジン スイッチを“停止”の位置にします。



3. JHL、NHLタイプのみ：外部タンク燃料コック レバーを“閉(OFF)”にします。

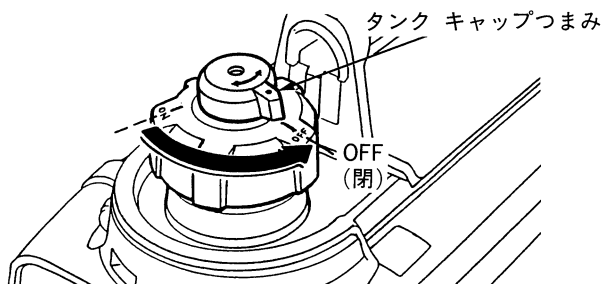


4. 燃料タンク キャップつまみを“閉(OFF)”にします。

JHL、NHLタイプは外部タンクの燃料タンク キャップのつまみを“閉(OFF)”にします。

⚠ 警告

発電機を運搬するときや、保管および点検整備時には燃料漏れを防ぐために燃料タンク キャップつまみを“閉(OFF)”にしてください。
JHL、NHLタイプは外部タンク燃料コック レバーを“閉(OFF)”にし、外部タンクの燃料タンク キャップつまみを“閉(OFF)”にしてください。こぼれた燃料が引火することがあります。



定期点検を受けましょう

販売店またはサービス店で実施していただく点検整備項目について

この取扱説明書に記載されているお客様ご自身で行っていただく点検、整備項目のほかに、お買いあげ販売店またはサービス店で定期的に実施していただく項目があります。

お買いあげいただきましたホンダ発電機をいつまでも安全で調子よく長持ちさせるために、定期点検を受けましょう。

販売店またはサービス店で実施する定期点検整備項目

燃焼室の清掃(排気ポート含む)	12か月毎または300時間運転毎実施
マフラ、エキバイの清掃	12か月毎または300時間運転毎実施
燃料タンク、燃料ろ過網の清掃	12か月毎
燃料チューブの点検	2 年毎

やさしい点検・整備

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチを“停止”位置にし、点火プラグ キャップを取外して行ってください。

排気口金網の清掃

⚠注意

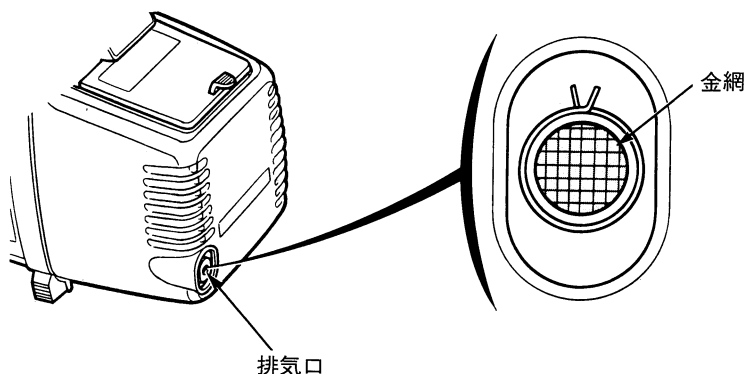
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどは高温になっています。やけどをしないように注意してください。

排気口の金網が目詰まりするとエンジン回転が低下し（エンジンが停止する場合もあります）発電できなくなります。定期的に清掃してください。

＜清掃時期＞ ：100時間運転目

清掃のしかた

排気口金網を変形させないように注意しながらブラシ等できれいに清掃します。



エア クリーナの清掃

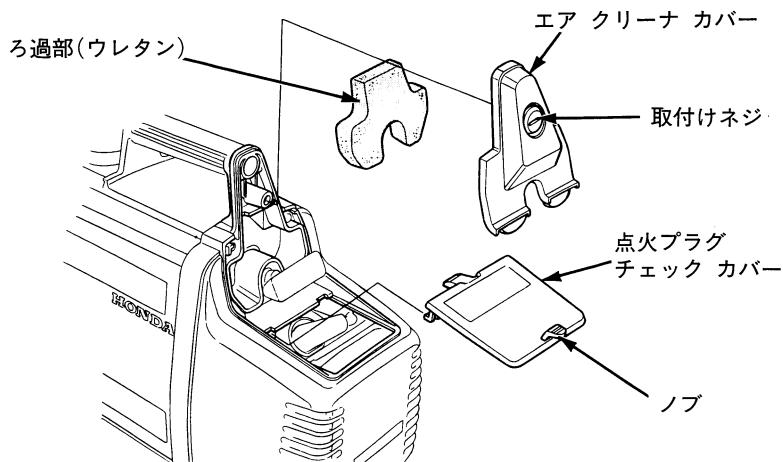
エア クリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃をしましょう。

＜清掃時期＞ 50時間運転毎

ほこりの多い場所で使用した場合には1日1回または10時間運転毎

清掃のしかた

1. ノブを上げ点火プラグ チェック カバーを外します。
2. 取付けネジをマイナス ドライバ等でゆるめ、エア クリーナ カバーを外します。
3. ろ過部(ウレタン) を取外します。



4. ろ過部(ウレタン) を取外し洗い油で洗浄し、固くしぼってからエンジン オイル(ウルトラ ネオ汎用機用－SAE 30、ウルトラ－U<2 輪車用>－SAE 10W－30) 等に浸し固くしぼります。

⚠ 警告

- 洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
- 換気の良い場所で行ってください。

5. ろ過部(ウレタン) とエア クリーナ カバーを確実に取付けます。

取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部(ウレタン) が変形して取付けられた場合、またはカバーやろ過部が取付けられていない場合はエンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。
ウレタンはめくれや、ずれの無いように、確実に取り付けてください。

6. 点火プラグ チェック カバーを確実に取付けます。

点火プラグの清掃・調整

⚠注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

取扱いのポイント

- ・故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。
- ・点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
- ・点検・調整後は点火プラグキャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因となります。

点火プラグが汚れていたり、電極が摩耗すると完全な火花が飛ばなくなり発電機の不調の原因となります。

<清掃時期> 100時間運転毎

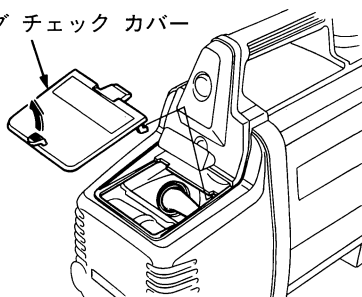
<指定プラグ> BMR-6 A (NGK)

W20MR-U (NIPPONDENSO)

清掃のしかた

1. ノブを上げ点火プラグチェックカバーを外します。

点火プラグチェックカバー

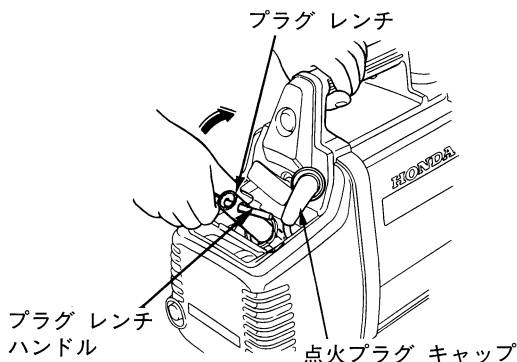


2. 点火プラグ キャップを点火プラグよりはずします。

取扱いのポイント

点火プラグ キャップは工具などで外さないでください。工具などで無理に外すとプラグ キャップが破損します。必ず手で外してください。

3. プラグ レンチ、プラグ レンチ ハンドルで点火プラグを取外します。

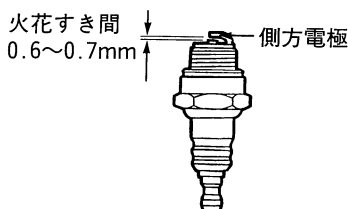


4. 点火プラグを清掃します。

清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス店へお申し付けください。プラグ クリーナが無いときは針金かワイヤ ブラシで汚れをおとしてください。

5. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.6～0.7mm



6. 取付けはまず手でねじ込み、次にプラグ レンチ、プラグ レンチ ハンドルで確実に締付けます。

常時使用しない場合には

非常用電源などの用途で常時使用しない場合は、いつでも使えるように毎月1回試運転を行ってください。燃料は長時間放置すると自然劣化してエンジンがかかりにくくなり、また故障の原因にもなります。

取扱いのポイント

燃料は自然劣化しますので3か月に1回、定期的に新しい燃料と入れ換えてください。

試運転のしかた

1. 「運転をする前に点検しましょう」に従って、燃料、エア クリーナを点検します。
2. 「発電機のかけかた」にもとづいて始動します。
3. 照明などの負荷をかけて10分以上運転します。
4. エンジンの調子、燃料の漏れ、エンジン スイッチの作動を確認します。

運搬する場合には

発電機を車両で運搬する場合には、次の事を必ず守ってください。

- エンジン スイッチを“停止”にします。
 - 燃料タンク キャップつまみ(JHL、NHLタイプは外部タンクの燃料タンク キャップつまみも) が確実に“閉(OFF)”になっていることを確認します。
- JHL、NHLタイプは、さらに外部タンク燃料コック レバーを“閉(OFF)”になっていることを確認します。
- 発電機が落下、転倒、破損等しないような場所を選んで積載します。

⚠警告

- ・燃料は燃料タンク注入口のレベル(給油限界位置) 以上に入れないでください(17頁参照)。燃料を入れ過ぎると、運搬の途中で燃料が漏れる場合があります。
- ・車室内やトランクに発電機を積んだまま、直射日光の当たるところや高温となる場所に長時間放置しないでください。
車両の内部が高温になり、燃料が気化して引火しやすい状態になります。
- ・車のトランクに発電機を積んだまま長時間悪路を走行しないでください。

長期間使用しないときの手入れ

長期間使用しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

⚠注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

1. 発電機各部の清掃を行います。

⚠警告

発電機は水洗いしないでください。

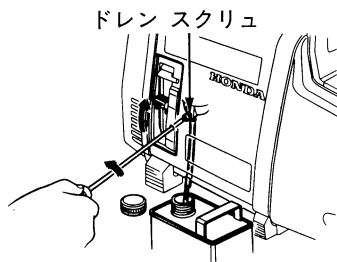
電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電する恐れがあります。

2. エア クリーナを清掃します。(清掃：34頁参照)
3. 燃料タンク、気化器内の燃料を抜きます。

取扱いのポイント

燃料は自然劣化します。必ず抜いてください。

1. JHL、NHLタイプは、外部タンク燃料コック レバーを“開(ON)”にします。
2. 燃料タンク キャップつまみ(JHL、NHLタイプは外部タンクの燃料タンク キャップつまみも)を“開(ON)”にします。
3. エンジン スイッチを“運転”の位置に合わせます。
4. 気化器のドレン スクリューをプラス ドライバでゆるめ、燃料を容器に受けます。



- ー5. 完全に燃料が抜けたらエンジン スイッチを“停止”にし、ドレン スクリューを締めます。
- ー6. JHL、NHLタイプは、外部タンク燃料コック レバーを“閉 (OFF)”にします。
- ー7. 燃料タンク キャップつまみ(JHL、NHLタイプは外部タンクの 燃料タンク キャップつまみも)を“閉(OFF)”にします。

⚠警告

燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して大けがや死亡事故を引き起こす恐れがあります。

- ・火気を近づけないでください。
- ・換気の良い場所で行ってください。
- ・燃料はこぼさないでください。万一こぼれた時は、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布などは、火災と環境に注意して処分してください。

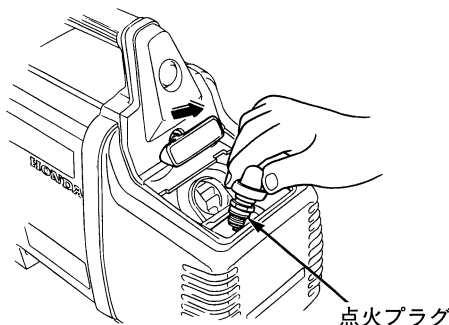
- 4. 始動グリップを引き重くなったところで止めます。
- 5. 発電機にシート等をかけ風通しのよい湿気の少ない所に保管します。

修理を依頼する前の簡単な点検

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないで買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください

エンジンが始動しないとき

1. 始動方法は取扱説明書通りですか？ (21頁参照)
2. 燃料はありますか？ (17頁参照)
3. 点火プラグは汚れていたり、濡れていませんか？ (36頁参照)
4. 点火プラグのすき間は正しいですか？ (37頁参照)
5. 点火プラグから火花が出ますか？
 - －1. 点火プラグ カバーを外し、点火プラグ キャップを点火プラグより取外します。
 - －2. 点火プラグをエンジンから取外し、点火プラグをプラグ キャップに取付けます。
 - －3. プラグ穴から離れた場所で、プラグのネジ部をエンジン本体にアースしておきます。感電を避けるためプラグ キャップ以外には触れないでください。



- －4. エンジン スイッチを“始動”の位置にして始動グリップを引き、プラグの電極に火花が出るか点検します。

⚠警告

この点検は風通しの良い場所でプラグ穴に手や顔を近付けないで行ってください。

燃料が付着していると引火する恐れがあります。布などできれいに拭き取ってください。拭き取った布などは、火災と環境に注意して処分してください。

火花が出ない時は、新しい点火プラグと交換するか、お買いあげ販売店またはサービス店にご連絡ください。

電気が取出せないとき

1. 使用器具に異常が無いか、また電気の取出し過ぎでないか確認してください。
2. 少し時間をおいてからもう一度確かめてください。

主要諸元

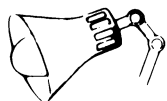
項 目	EX300JH	EX300NH	EX300JHL	EX300NHL
名 称	ホンダ発電機EX300			
型 式	ECC			
エ ン ジ ン 名 称	GE35 (2 サイクル)			
総 排 気 量	34.4cm³			
内 径 × 行 程	37×32mm			
タ ン ク 容 量	0.81 ℓ		0.81 ℓ (外部タンク1.50 ℓ)	
始 動 方 式	リコイル スタータ			
発 電 機 型 式	多極界磁回転型			
機 体 型 式	フルカバード タイプ			
寸 法				
全 長	365mm			
全 幅	195mm		255mm	
全 高	305mm			
乾 燥 質 量	8.5kg		10.0kg	
出 力				
定格出力＜交流＞	150VA／300VA			
＜直流＞	72W			
周 波 数	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz
電 圧＜交流＞	100V			
＜直流＞	12V			
電 流＜交流＞	1.5A/3.0A			
＜直流＞	6 A			
電 圧 調 整	サイリスタA.V.R方式			
出 力 端 子	交流 アース式コンセント 直流 T型コンセント			
型 式 認 可 番 号	▽96-403-1	▽96-404-1	▽96-403-1	▽96-404-1

この諸元は予告なく変更することがあります。

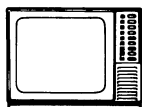
交流電源／直流電源の使用できる範囲

交流電源の使用できる範囲

下記の範囲でご使用ください。

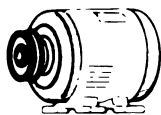


照 明



テレビ・
ラジオなど

100 V — 300W_{まで}



モータ

100 V — 100W_{まで}

モータは起動電流の多い製品、または種類によっても使用できない場合があります。

詳しくは、お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

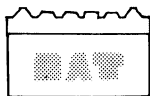
安定器の付いた放電タイプのランプ(水銀灯、メタル ハライド ランプ等)を消灯した場合は、ランプが冷えるまで待ってから再点灯してください。

発電機や使用器具に不具合が発生する恐れがあります。

使用する負荷によっては発電機とのマッチング上、不具合が発生することがあります。お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

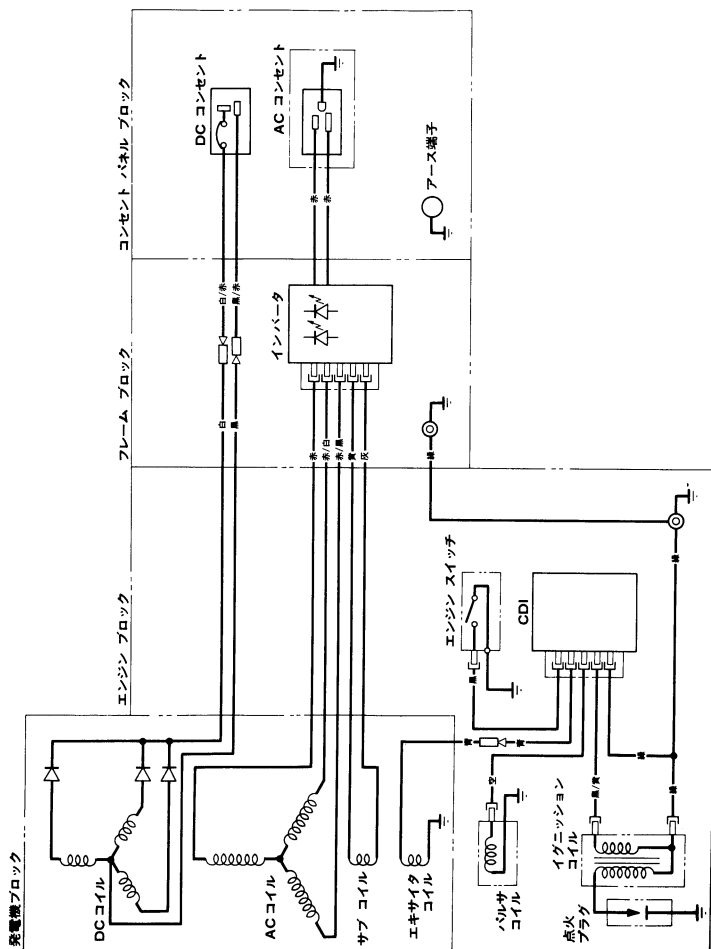
直流電源の使用できる範囲

下記の範囲でご使用ください。



12V バッテリー充電

12V – 6 A_{まで}





HONDA

本田技研工業株式会社
東京都港区南青山2-1-1